



OLYMPUS TERUMO
BIOMATERIALS

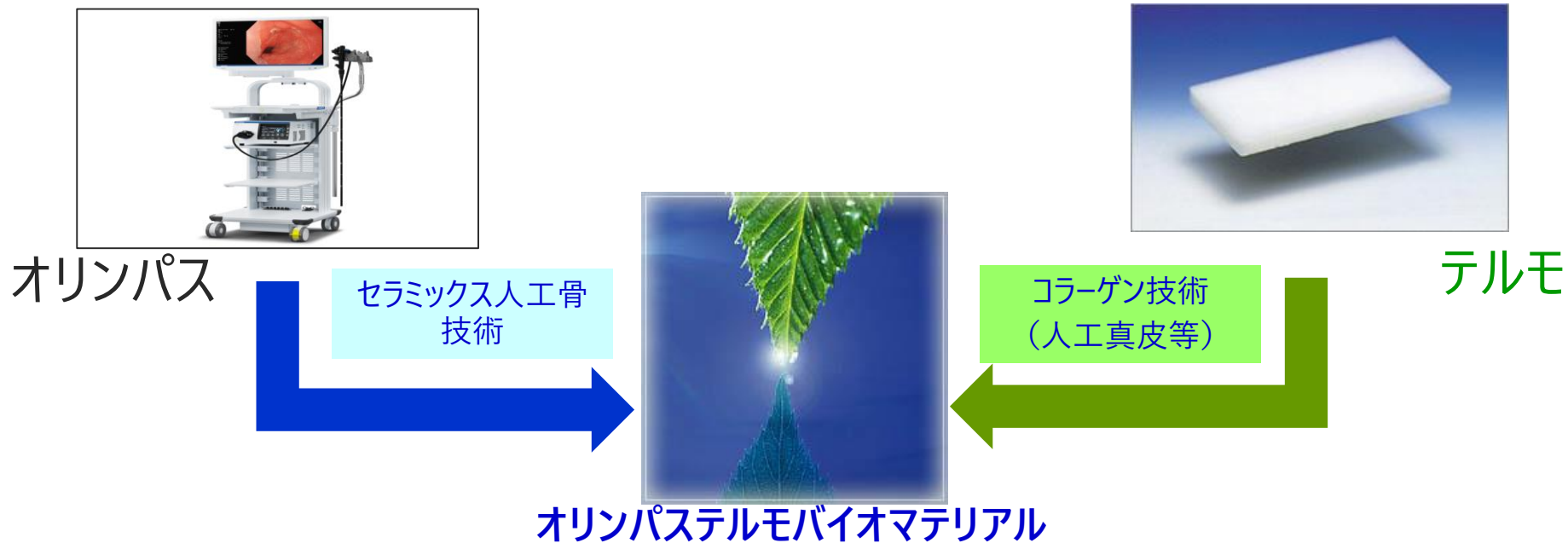
共生社会の実現に向けて ～重度障害者アスリートとともに～

2021.10.27

オリンパステルモバイオマテリアル株式会社

会社概要

- 会社名：オリンパステルモバイオマテリアル株式会社
- 事業内容：人工骨・コラーゲン（人工真皮、歯科補填材）等の生体材料および再生医療に関する研究開発並びに製造販売（“医療機器メーカー”）
- 本社：東京都渋谷区笹塚1-50-1 Daiwa 笹塚タワー
- 株式出資比率：オリンパス66.6%（192,000株）、テルモ33.4%（96,290株）
- 代表取締役社長：橋本弘
- 従業員数：132名（2021年4月1日時点）



企業理念



—医希生輝、イキイキー

「医療に希望と生命に輝きを！」



生命が本来持っている治癒力を引き出す治療を第一に、病気やけがに苦しむ患者さまが健康で“イキイキ”した生活を送れるようにすることが、私たちの使命です。

そして、お客様、全社員、社員の家族の皆様、そして当社事業に関わる全ての皆様が“イキイキ”の輪の中に包まれることを目指します。

バイオマテリアル製品

生体材料と医療用金属インプラント製品（双方を合わせ広義の「バイオマテリアル」）を全国の病院を顧客として販売



背景

- 2017年当時、障害者雇用促進法において、民間企業の障害者雇用率は2.0%（社員50人あたり1人）であり、直雇用者は108名であるため、障害者2名の雇用が必要。
 - － 軽度障害者（3級以下）は2名の雇用義務。
 - － 若しくは、重度障害者（2級以上）は1名のみの雇用義務。
- 2017年度は障害者雇用0名となり、障害者雇用促進法において、1人につき年間48万円の納付金（ペナルティ）が発生。年間96万円納付。



企業の社会的責任（CSR）が果たせていない。

重度障害者（車椅子）アスリートを採用した目的

①企業の責務 (CSRの視点)

重度障害者採用によって、法定雇用を達成
(責務遂行)

②企業価値向上 (対社外的な視点)

事業（医療を通じた社会貢献）とも合致。

③風土改革 (対社内的な視点)

重度障害者アスリートとして努力する姿勢
社内風土の変革に良い影響。

受け入れ態勢の事前チェック

Daiwa笹塚タワー施設（主勤務場所） 笹塚タワー施設状況

施設	状況
通勤手段	・可（自家用車にて笹塚タワー駐車場まで通勤）
各階移動	・可（人員用+荷物用エレベーターを利用）
玄関	・可（正面玄関スロープ有り）
OTB居室	・可（導線、共有施設等全て問題なく利用可）
トイレ	・可（健常者用個室トイレの利用は可能。 また地下707Aの「だれでもトイレ」を優先的に利用）
カフェテリア	・可（車椅子用利用スペース設置）
有事対応	・ <u>不可</u> （非常用階段の車椅子未対応。数名で抱えながら707A移動）



重度障害者アスリート採用



複数名面接の結果、パワーリフティング競技者の採用が決定
※**パラリンピックのバスケットボール元日本代表選手**

氏名	石原 正治（いしはらまさはる）
所属	人事総務部
業務内容	人事総務事務およびスポーツを通じた広報業務
障害内容	下肢重度障害（ <u>車椅子使用</u> ）
スポーツ内容	パラ・パワーリフティング
雇用形態	契約社員（1年更新）
働き方	週5日勤務
就業時間	<u>8:45-18:15の8時間勤務</u> ※8:45-14:30を笹塚勤務とし、その後練習場である東京体育館へ移動（休憩時間）。 <u>15:15-18:15の3時間をトレーニング</u> にあてる。
通勤手段	自動車通勤
勤務開始	2018年1月1日

働き方 (1日8時間勤務)	
8:45	午前 笹塚勤務 (3:15)
12:00	
12:45	昼休憩
	午後 笹塚勤務 (1:45)
14:30	
15:15	移動
	夕方 トレーニング (3:00)
18:15	



OLYMPUS TERUMO
BIOMATERIALS

オリンパステルモバイオマテリアル株式会社所属 パラ・パワーリフティング 石原正治



石原 正治(いしはら まさはる) (49歳)

2018年1月1日入社
障害等級 1種2級(車いす)
所属 人事総務部人事総務G

入社当初は業務とアスリート活動の両立に戸惑いや心の葛藤があったものの、所属上長である今回発表をされている立川さんや、職場の方々の丁寧なアドバイスやサポートにより仕事を覚え、パラパワーリフティングを続けることが出来ました。

パラパワーリフティングはとてもマイナーな競技ですが、社内で周知することが出来たことにより、ファンの方を多く作ることが出来たことも、業務と競技を続けてこれた大きなきっかけでした。



スポーツイベント

ファンの方々にはコロナ禍前のある大会で大会応援ツアーを開催させていただき、京都まで30名近い方に参加をしていただきました。
大会では私のバーベルを持ち上げる試技を声援で力を合わせて一緒に挙げていただきました。

これからも業務と競技の両立に向け職場の方々にご協力をいただきながら、ファンの方々と一緒にパリ・パラリンピック出場の夢を追いかけていきたいと思っています。

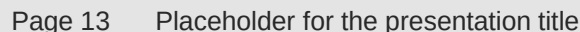


CSR活動（社会・地域貢献活動）

NPO法人パラキャン様にご協力いただき、社会貢献活動・地域貢献活動の一つとして、学校での講演活動を行っています。講演のテーマは、共に生きる「共生社会」の実現をテーマにして、私の体験もとに「障がいについて」「スポーツが持つ力」を中心に、講演を行っています。



内閣官房「ホストタウン応援プロジェクト」動画制作へ協力
(7月1日Web公開 <https://youtu.be/ZPuxpRK7ic8>)



共生社会の実現に向けて

障害者スポーツを通して、誰もがスポーツに親しむ機会を持っていることを伝え、スポーツで可能性を追求する人の姿は、障害のある・無い関係なく人々の関心を惹き付け、夢や感動を与えることができます！

人や社会が作った障害は、意識次第でなくせるはずです。バリアフリー社会を考えるヒントを、一緒に考えましょう！



こころのバリアフリー実現！



OLYMPUS TERUMO
BIOMATERIALS

Out of ^{lympus}The ^{erumo}B^{iomaterials}ox thinking